

# 第1学年 音楽科学習指導案

日 時：平成28年11月21日（月）

場 所：浜田市立弥栄中学校 音楽室

指導者：教諭 山田 優子

1. 題材名 My Melody 日本の音階を使って旋律をつくろう

## 2. 題材の目標

民謡音階を用いた旋律づくりに関心をもち、リズム・音のつながり方を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取る活動を通して、自己のイメージと言葉の抑揚やリズムの特徴を生かし、旋律を創作し表現する能力を育てる。

## 3. 題材設定の理由

### (1) 題材について

創作の活動を通して、第1学年では「言葉や音階などの特徴を感じ取り、表現を工夫して簡単な旋律をつくること」を指導し、「即興的に音を出しながら音のつながり方を試すなど、音を音楽へと構成していく体験を重視する。その際、理論に偏らないようにするとともに、必要に応じて作品を記録する方法を工夫させること」と示されている。

本題材は、予め決められたリズムをもとに、民謡音階の5音を使って、最後はラで終わる旋律をつくるという構成になっており、与えられた条件の中で無理なく創作の活動ができるため、中学校での創作の導入にふさわしいと考える。

また、音を音楽へと構成する過程において、言葉表現工夫の手がかりとして、イメージをふくらませ、思いや意図をもって旋律をつくらせたいと考え、俳句の歌詞をつけることとした。教科書では「静けさと日本」と題し、発展的学習として松尾芭蕉の俳句が取り上げられている。

### (2) 生徒について

本学級は7名（男子1名、女子6名）で構成されており、音楽の授業にも意欲的に取り組んでいる。歌唱より器楽の活動を好む生徒が多く、つくった旋律に俳句の歌詞をつけて歌う場面では、多少抵抗を感じるかもしれない。また、階名を書いてから活動に入る生徒もいるので、キーボードを使用する場面では、使う音の鍵盤にドレミを示す必要が考えられる。〔共通事項〕音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成などの音楽を形づくっている要素を知覚したり、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取ったりすることはある程度身についているが、双方を関わらせて思考・判断する力を伸ばすためにも、〔共通事項〕を手がかりに思いや意図をもって表現を工夫する学習を積み重ねていきたい。

### (3) 指導にあたって

民謡音階を聴いたり歌ったりして、音階のもつ特質や雰囲気を感じ取り、自分がつくりたい旋律のイメージに生かせるようにする。その後、教科書にあるWarming upの活動に取り組むことで、その後の活動に見通しをもたせる。

前時の活動をふまえて、歌詞となる俳句からイメージした4分の4拍子3小節分の旋律をつくる。学校司書に依頼し、事前に図書資料から秋の俳句をピックアップした資料を作成してもらおう。その資料をもとに、気に入った一句を選び、意味や内容、イメージ、どんな雰囲気、どの旋律をつくりたいかを図書資料にあたりながら考える。2/4時間目にあたるこの時間

は、生徒の俳句への理解やイメージに深まりをもたせるため、司書教諭・学校司書とともに指導にあたる。俳句の歌詞をつけたことで、言葉のリズムを手がかりに旋律のリズムを工夫したり、言葉の抑揚やアクセントなどを手がかりに旋律の音高を工夫したりすることも可能となる。

選んだ音の並びをすぐに試せるよう、1人1台ずつキーボードを準備する。記譜については、選んだ音に丸をつける表し方とし、グラフィックな方法で視覚化することで、音のつながり方を実感しながら旋律をつくることを優先する。五線への記譜にはこだわらない。音を選んで旋律をつくる場面において、生徒の困り感が強いようであれば、指導者がつくった旋律を例示し、旋律づくりに対するイメージや意欲がもてるようにする。発表の際には、どのような思いや意図をもってつくったか等を紹介し、歌やキーボードで演奏する。自分で弾きながら歌えるのが理想だが、難しい場合には教師が旋律をキーボードで弾き、生徒は歌唱を主に担当する。生徒が旋律をつくる楽しさや喜びを実感できるように支援していきたい。

#### 4. 本実践とキャリア教育

旋律をつくっていく過程や発表の場面で、自己のイメージや思い、工夫点を伝え合ったり、他者の意図に共感したりできるようにするなどコミュニケーションを図らせる。それによって、自分の思いや意図が表現されているかどうかを客観的に捉えたり、工夫の視点や方法を増やしたりすることもできるのではないかと考える。また、同じ音階やリズムを使っても、思いや意図のちがいがから、たくさんの個性的な音楽が生まれることに気付かせたい。

【お互いに高め合い、伸びていこうとする力（人間関係形成・社会形成の能力）】

#### 5. 学習指導案とのかかわり

##### (1) 本題材で指導する事項

A表現（3）創作	
○	ア 言葉や音階などの特徴を感じ取り、表現を工夫して簡単な旋律をつくること。
	イ 表現したいイメージをもち、音素材の特徴を感じ取り、反復、変化、対照などの構成を工夫しながら音楽をつくること。

##### (2) 取り扱う主な〔共通事項〕

ア	音色	/
	リズム	言葉の特徴を生かしたリズム
	速度	/
	旋律	言葉の抑揚やアクセントを生かした音のつながり
	テクスチャ	/
	強弱	/
	形式	/
	構成	/
イ	用語や記号	/

#### 6. 教材

- ・ My Me l o d y 日本の音階を使って旋律をつくろう
- ・ 図書資料から選んだ俳句

## 7. 評価規準

### (1) 領域・分野と評価の観点との関連

評価の観点 領域・分野	ア) 音楽への 関心・意欲・態度	イ) 音楽表現の 創意工夫	ウ) 音楽表現の 技能	エ) 鑑賞の能力
A. 歌唱				
A. 器楽				
A. 創作	○	○	○	
B. 鑑賞				

### (2) 題材の評価規準

ア) 音楽への関心・意欲・態度	イ) 音楽表現の創意工夫	ウ) 音楽表現の技能
①民謡音階の特徴に関心をもち、音楽表現を工夫して旋律をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。	①言葉のリズムを手がかりに、音楽表現を工夫している。 ②言葉の抑揚と音のつながり方を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら音楽表現を工夫し、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。	①表現したいイメージと言葉の抑揚やリズムの特徴を生かした音楽表現をするために必要な技能（音のつながり方、記譜の仕方）を身に付けて旋律をつくっている。

## 8. 指導計画

時	ねらい	学習内容	評価	評価方法
1	民謡音階の特徴に関心をもち、音楽表現を工夫して旋律をつくる学習に主体的に取り組むことができるようにする。	○日本の音階として取り上げられている都節音階、律音階、民謡音階、沖縄音階の音階そのものや、それぞれの音階からつくられた民謡を聴いたり歌ったりして比較し、気付いたことや感じたことを話し合う。 ○民謡音階を使って旋律をつくる練習をする。指定されたリズムに合わせて、使う音「レミソラドレ」の中から好きな音を選び、4分の4拍子1小節分の旋律をつくる。 ○つくった旋律を歌やキーボードでリレーして演奏し、気付いたことや感想を発表し合う。 ○学習の振り返りをする。	ア①	・活動の様子 ・発言内容 ・演奏聴取
2	言葉のリズムを手がかりに、音楽表現を工夫できるようにする。	○前時のような方法を用いて、歌詞となる俳句からイメージした4分の4拍子3小節分の旋律をつくることを知る。 ○図書資料から秋の俳句をピックアップした資料【学校司書作成】をもとに、気に入った一句を選び、意味や内容、イメージ、どんな雰囲気の旋律をつくりたいかをワークシートに記入する。【司書教諭・学校司書】	イ①	・活動の様子 ・発言内容 ・ワークシート

		<p>○選んだ俳句の言葉のリズムをもとに，2小節目のリズムを考える（1，3小節目のリズムは指定）。</p> <p>○学習の振り返りをする。</p>		
3 本 時	<p>言葉の抑揚と音のつながり方を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもって音楽表現を工夫することができるようにする。</p>	<p>○旋律をつくる見通しをもつため，使う音（民謡音階の5音），イメージ，思いや意図を確認し，身近な短い言葉，童謡，唱歌，既習曲から言葉の抑揚や音選びについて知る。</p> <p>○前時までの学習をもとに，歌詞となる俳句からイメージした4分の4拍子3小節分の旋律を工夫してつくる。</p> <p>○つくった旋律を歌ったりキーボードで演奏したりして，気に入った音の動きになっているかを確認しながら，いろいろと試す。</p> <p>○旋律の一部分（一番工夫したところ，ほかの人にはどんなふうに感じられるかを知りたいところなど）を歌やキーボードで演奏し，中間発表する。</p> <p>○友達の発表を聴いて，感じたことを伝えたり，アドバイスをしたりする。</p> <p>○学習の振り返りをする。</p>	イ②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の様子</li> <li>・発言内容</li> <li>・演奏聴取</li> <li>・ワークシート</li> </ul>
4	<p>表現したいイメージと言葉の抑揚やリズムの特徴を生かした音楽表現をするために必要な技能（音のつながり方，記譜の仕方）を身に付けて旋律をつくることができるようにする。</p>	<p>○前時に，つくった旋律の一部分を発表し，友達から感想や意見をもらったことなどを参考に，再度，歌ったりキーボードで演奏したりして試し，旋律を完成させる。</p> <p>○選んだ俳句，意味や内容，どのような思いや意図，工夫をしてつくったか等を紹介し，つくった旋律を歌やキーボードで演奏し，発表する。</p> <p>○友達の発表を聴いて，気付いたことや感じたことを意見交流する。</p> <p>○学習の振り返りをする。</p>	ウ①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の様子</li> <li>・発言内容</li> <li>・演奏聴取</li> <li>・ワークシート</li> </ul>

## 9. 本時の学習 (3 / 4)

### (1) ねらい

言葉の抑揚と音のつながり方を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもって音楽表現を工夫することができるようにする。

### (2) 展開

	学習活動	教師の支援 (○) と評価 (★)
導 入	<p>1. 本時の目標, 流れを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     俳句の歌詞からイメージした旋律を工夫してつくろう。                 </div> <p>2. 旋律をつくるための見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 使う音 (民謡音階の5音)</li> <li>・ イメージ, こんな旋律にしたい</li> <li>・ 言葉の抑揚</li> </ul>	<p>○ 選んだ俳句が載っている図書資料を音楽室内に展示する。</p> <p>○ 民謡音階の特徴を感じるため, 5つの音を上下それぞれから弾いてみる。</p> <p>○ 身近な短い言葉, 童謡, 唱歌, 既習曲から言葉の抑揚や音選びについて説明する。</p> <p>○ 「旋律をつくるための手がかり」として掲示し, 意識できるようにする。</p>
展 開	<p>3. 旋律をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ つくった旋律を歌ったりキーボードで演奏したりして, 気に入った音の動きになっているかを確認しながら, いろいろと試す。</li> <li>・ 選んだ音に○をし, 線で結ぶ。</li> <li>・ 工夫したことをワークシートに記入する。</li> </ul> <p>4. 旋律の一部分を発表する。(中間発表)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一番工夫したところ, 他の人にはどんなふう感じられるかを知りたいところなどを歌やキーボードで演奏し, 発表する。</li> <li>・ 発表の前に, イメージや工夫したことを簡潔に述べる。</li> <li>・ 発表を聴いて, 感じたことを伝えたり, アドバイスをしたりする。</li> </ul>	<p>○ 個別に巡回し, なぜこの音にしたのかなど質問し, イメージ, 思いや意図, 言葉の抑揚と実際の音がリンクするよう助言する。</p> <p>○ 生徒の困り感が強いようであれば, 指導者がつくった旋律を例示し, イメージ, 思いや意図, 言葉の抑揚をかかわらせながら, 工夫したことを述べる。</p> <p>○ ワークシートを実物投影機で映す。</p> <p>○ 必要であれば, キーボードを弾き, 一緒に歌う。</p> <p>○ 生徒の発言とともに, 指導者が価値づけをする。</p> <p>★【音楽表現の創意工夫】イ② (活動の様子, 発言内容, 演奏聴取, ワークシート)</p>
ま と め	<p>5. 振り返りをワークシートに記入する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     旋律をつくる手がかりをもとに, 旋律を工夫することができましたか。                 </div>	<p>○ ねらいに沿った振り返りができるよう, 授業の初めに示しておく。</p>

(3) 本時の評価

【音楽表現の創意工夫】イ②

言葉の抑揚と音のつながり方を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら音楽表現を工夫し、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。

十分満足できると判断される生徒の具体例	おおむね満足できると判断される生徒の具体例	支援を必要とする生徒への指導の手立て
イメージから明確な思いや意図をもち、言葉の抑揚とかわらせながら、音のつながり方を工夫している。	イメージから大まかな思いや意図に沿って、言葉の抑揚を参考に試行錯誤しながら、音を選んでつなげている。	どんな旋律をつくりたいかを確認し、言葉の抑揚を参考に実際に音を出しながら音選びを一緒にやってみたり、いくつかの例を示し比較聴取して旋律を選択できるようにする。

(4) 授業研究の視点

- ・ 図書資料を用いて俳句を選び歌詞をつけたことは、思いや意図をもって表現を工夫して旋律をつくることに有効であったか。
- ・ 音楽表現を工夫するための教師の支援、価値づけは適切であったか。